

平成28年 上半期  
火災・救急統計

松山市消防局

# 目 次

第1	火災の概況	1
1	火災件数	1
2	火災による損害	1
3	死傷者数	1
4	出火原因別の火災発生状況	2
5	損害額	3
6	近年の火災状況	3
7	地区別火災件数	4
8	住宅用火災警報器の奏功事例	5, 6
第2	救急の概況	7
1	救急出場件数・搬送人員の状況	7
2	医療機関別搬送状況	8
3	事故種別・傷病程度別搬送人員の状況	8
4	応急処置実施状況	9
5	地区別救急発生状況	10

火

災



# 第1 火災の概況

松山市における平成28年上半期（1月～6月）の火災概況は、火災件数62件、損害額6,872万4千円、死者5人、負傷者12人となっています。

## 1 火災件数

平成28年上半期（1月～6月）における出火件数は62件で、前年同期（66件）と比べて4件減少しています。

これは、おおよそ2.9日に1件の火災が発生したこととなります。

（▲は減少）

		平成28年	平成27年	前年同期比
総火災件数		62	66	▲ 4
種別	建物火災 (住宅火災)	49 (35)	43 (28)	6 (7)
	車両火災	3	3	0
	林野火災	0	2	▲ 2
	船舶火災	0	1	▲ 1
	航空機火災	0	0	0
	その他の火災	10	17	▲ 7

※その他の火災とは、田畑や河川敷の枯草、屋外に放置された物件等が燃えた火災をいいます。

## 2 火災による損害

平成28年上半期（1月～6月）における火災による損害額は6,872万4千円で、その損害状況は次表のとおりです。

（▲は減少）

		平成28年	平成27年	前年同期比
焼損棟数		74	76	▲ 2
り災世帯数		50	50	0
建物焼損床面積 (㎡)		1,251	2,629	▲ 1,378
建物焼損表面積 (㎡)		350	205	145
林野焼損面積 (a)		0	22	▲ 22
損害額 (千円)		68,724	111,652	▲ 42,928

## 3 死傷者数

平成28年上半期（1月～6月）における火災による死者は5人で、前年同期（3人）と比べて2人増加しています。また、火災による負傷者は12人で、前年同期（10人）と比べて2人増加しています。

（▲は減少）

		平成28年	平成27年	前年同期比
死者		5	3	2
負傷者		12	10	2

#### 4 出火原因別の火災発生状況

平成28年上半期(1月～6月)における火災62件を出火原因別にみますと、「たばこ」が11件(17.7%)、「こんろ」が10件(16.1%)、「放火」が6件(9.7%)の順となっています。

また、「放火火災」は10件で全体の16.1%を占めています。

※「放火火災」とは、出火原因が「放火」及び「放火の疑い」の火災のことをいいます。

(▲は減少)

	平成28年	平成27年	前年同期比
たばこ	11	8	3
こんろ	10	13	▲3
放火	6	5	1
放火の疑い	4	5	▲1
たき火	2	11	▲9
排気管	2	1	1
煙突・煙道	2	1	1
ストーブ	1	1	0
火あそび	1	1	0
灯火	1	1	0
取灰	1	1	0
電気機器	1	1	0
電灯・電話等の配線	1	1	0
こたつ	1	0	1
風呂かまど	1	0	1
マッチ・ライター	0	2	▲2
溶接機・切断機	0	1	▲1
焼却炉	0	1	▲1
配線器具	0	1	▲1
その他	12	5	7
不明・調査中	5	6	▲1
合計	62	66	▲4

## 5 損害額

平成28年上半期（1月～6月）における火災による損害額は6,872万4千円で、前年同期（1億1,165万2千円）と比べて4,292万8千円減少しています。

（▲は減少）

	平成28年 (千円)	平成27年 (千円)	前年同期比 (千円)
損害額	68,724	111,652	▲ 42,928
建物	67,716	109,048	▲ 41,332
車両	625	45	580
船舶	0	800	▲ 800
林野	0	0	0
航空機	0	0	0
その他	383	1,759	▲ 1,376
爆発	0	0	0

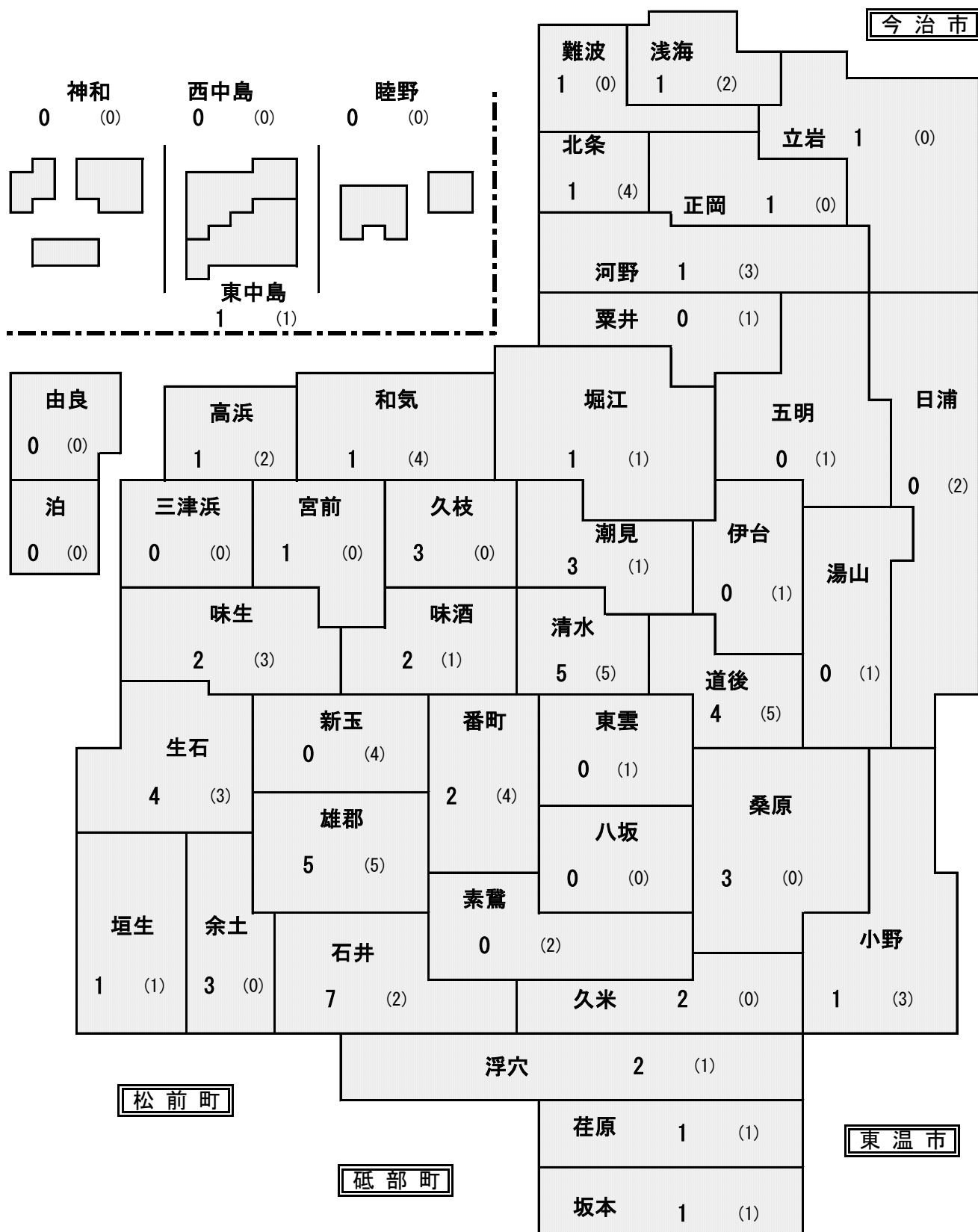
## 6 近年の火災状況

近年の上半期（1月～6月）における火災状況は次表のとおりです。

	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平均
火災件数 (件)	62	66	93	80	64	73.0
焼損棟数 (棟)	74	76	102	67	58	75.4
死者 (人)	5	3	7	7	4	5.2
負傷者 (人)	12	10	35	21	9	17.4
り災世帯数 (世帯)	50	50	81	45	39	53.0
り災人員 (人)	110	115	182	92	92	118.2
損害額 (千円)	68,724	111,652	111,814	84,246	43,311	83,949

## 7 地区別火災件数

( ) 内は前年同期の火災件数





## 8 住宅用火災警報器の奏功事例

松山市では、これまで住宅用火災警報器を設置していたおかげで、大事には至らなかった事例が31件報告されています。(平成28年6月末日現在)

松山市で実際に起きた、ついうっかりの危険な具体例をご紹介しますので、住宅用火災警報器をまだ取り付けていないご家庭は、一日も早く取り付けるようにしましょう。

### 【事例1】 一般住宅（2階建て）

早朝、台所で鍋をコンロにかけて火をつけ、これを忘れて2階に上がり、寝室で寝ていたところ、隣人が住宅用火災警報器の警報音と換気扇からの煙に気付き、火災を発見しました。

当事者は、隣人がドアを叩く音で目覚め、1階に駆けつけると、鍋から1m程度の炎が立ち上がっていたが、水道の水をかけ消火に成功しました。

この住宅には、1・2階に住宅用火災警報器が設置されていました。

※ 住宅用火災警報器の警報音は、居住者に限らず、近隣の方が気付くこともあります。

### 【事例2】 共同住宅（アパート・マンション）

深夜未明、就寝中に住宅用火災警報器の警報音で目が覚め、火災に気付き消火器で初期消火を試みたが消火できず、避難しました。

また、階下の住人も警報音で上階の火災を発見し、119番通報を行いました。

※ 就寝中の火災は、気付くのに時間がかかります。住宅用火災警報器によって、早期の避難が可能になります。

### 【事例3】 一般住宅（2階建て）

2階の寝室にいたところ、2階階段室に設置している住宅用火災警報器の警報音に気付き、部屋の外に出ると煙が充満しており、1階に下りたところで火災を発見しました。

また、家族も警報音で火災に気付き、消火活動を行いました。消火困難と判断し、家族全員避難しました。

※ 2階にも寝室がある場合、煙の通り道となる階段室にも取り付ける必要があります。

### 【事例4】 一般住宅（2階建て）

台所のグリルで魚を焼いていることを忘れ、隣の部屋でテレビを見ていたところ、「火事です・火事です」という音声が鳴っているのに気付き、台所に戻ると煙が充満しており、急いでグリルのスイッチを切り消火しました。

また、近所の人も2階から出ている煙を発見し、玄関に行くと警報音が鳴っていたので、住人を呼び出すとともに、消防に通報しました。

※ 119番通報が早期にでき、消防隊も早く駆けつけることができます。

### 【事例5】 共同住宅（アパート・マンション）

深夜、居住者が寝たばこをしながら寝付いてしまい、布団に引火しました。同じアパートに住む住人が、出火室からの住宅用火災警報器の警報音と煙に気付き、出火室へ向かい、燃えていた布団を屋外に引き出し、水道水で消火に成功しました。

※ 早期の発見による初期消火は、被害の軽減に繋がります。

**【事例6】 共同住宅（アパート・マンション）**

昼間、調理中であることを忘れ、鍋をコンロにかけたまま寝込んでしまい、鍋が空焚き状態になり、発生した煙で警報器が作動し、近所の住人が警報音に気付いて共同住宅の管理会社に通報しました。管理会社から119番通報があり、駆けつけた消防隊により早期に状況の確認ができました。

※ 住宅用火災警報器の設置により、火災を未然に防ぐことができます。

**【事例7】 併用住宅（1階物品販売店舗・2階住宅）**

深夜、1階販売店の従業員が鍋をコンロにかけたまま帰宅し、鍋が空焚き状態になりました。2階に通じる屋内階段に設置していた住宅用火災警報器の警報音に、2階に居住する大家さんが気付き119番通報し、駆けつけた消防隊により早期に状況の確認ができました。

この建物には、店舗内・屋内階段にも警報器を設置していました。

※ 住宅以外の用途にも住宅用火災警報器は有効です。

**【事例8】 一般住宅（2階建て）**

1階の居室にいたところ、2階で住宅用火災警報器の警報音が鳴ったため、上がってみるとクローゼット内部から炎が上がっていました。

この家では住宅用火災警報器を2階の各部屋と階段上部に設置しており、連動して鳴るものであったため早期に火災を発見できました。

※ 連動式の住宅用火災警報器は、別の部屋にいても火災を早期に発見できます。

**【事例9】 共同住宅（アパート・マンション）**

夕食後、やかんをコンロにかけたままリビングで寝込んでしまい、やかんが空焚き状態になり、炎と煙が発生したことで警報器が感知し、火災に気付き、共同住宅に備え付けの消火器で消火に成功しました。

※ 住宅用火災警報器の警報音は、就寝中でも火災を早期に発見し、被害の拡大を防ぐことに有効です。

住宅用火災警報器は、火災を早期に発見することで、「初期消火」「避難」「119番通報」をいち早く実施することができ、被害の軽減に役立ちますが、火災を防ぐことや、消火できるものではありません。

日頃から、火気の取り扱いには十分注意し、火災予防を心がけましょう。

住宅用火災警報器の設置場所などの詳しい情報は、松山市ホームページの「住宅用火災警報器」をご参照ください。

<http://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/bosai/sbbousai/sbkasaiyobo/juukeiki.html>

救 急



## 第2 救急の概況

松山市における平成28年上半期（1～6月）の救急出場件数は12,283件、搬送人員は11,325人で、前年と比較し出場件数・搬送人員ともに増加しています。

これは、一日平均67.5件、21分20秒に1回の割合で救急車が出場し、市民46人に1人の割合で搬送されたこととなります。

### 1 救急出場件数・搬送人員の状況

事故種別では、急病・一般負傷・交通事故の順となっており、この3種別だけで、出場件数・搬送人員とも全体の86.4%を占めています。

(▲は減少)

区分	単位	平成28年	構成比(%)	平成27年	構成比(%)	増減
出場件数	件	12,283	100.0	11,913	100.0	370
内訳	火災	57	0.5	44	0.4	13
	自然	1	0.0	0	0.0	1
	水難	5	0.0	13	0.1	▲8
	交通	1,330	10.8	1,345	11.3	▲15
	労災	67	0.5	57	0.5	10
	運動	65	0.5	76	0.6	▲11
	一般	1,630	13.3	1,540	12.9	90
	加害	55	0.4	51	0.5	4
	自損	150	1.2	148	1.2	2
	急病	7,647	62.3	7,476	62.8	171
	転院	1,238	10.1	1,124	9.4	114
	その他	38	0.3	39	0.3	▲1
搬送件数	件	11,199	-	10,987	-	212
搬送人員	人	11,325	100.0	11,109	100.0	216
内訳	火災	15	0.1	9	0.1	6
	自然	1	0.0	0	0.0	1
	水難	2	0.0	7	0.0	▲5
	交通	1,336	11.8	1,319	11.9	17
	労災	65	0.6	56	0.5	9
	運動	68	0.6	80	0.7	▲12
	一般	1,501	13.3	1,464	13.2	37
	加害	50	0.4	44	0.4	6
	自損	118	1.0	111	1.0	7
	急病	6,953	61.4	6,909	62.2	44
	転院	1,209	10.7	1,108	10.0	101
	その他	7	0.1	2	0.0	5
出場平均(1日)	件	67.5		65.8		
出場間隔		21分20秒		21分53秒		

(注1) 出場平均については、前年比1日あたり1.7件増加しています。

(注2) 出場間隔については、前年比33秒短くなっています。

(注3) 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

## 2 医療機関別搬送状況

医療機関への搬送状況は、救急医療機関10,310人(91.0%)、その他の医療機関1,014人(9.0%)、その他の場所1人となっており、救急医療機関へ搬送する割合が多いです。

事故種別等 告示の別等	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
救急医療機関	6,412	1,279	1,437	1,182	10,310
その他の医療機関	541	57	64	352	1,014
その他の場所	0	0	0	1	1
合計	6,953	1,336	1,501	1,535	11,325

(注1) 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

(注2) 救急医療機関とは、厚生省令により救急告示を受けている医療機関のことである。

## 3 事故種別・傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度別では、死亡135人(1.2%)、重症770人(6.8%)、中等症3,585人(31.7%)、軽症6,835人(60.4%)、その他0人(0.0%)となっており、軽症の占める割合が多いです。

	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
死亡	2	0	0	4	1	0	8	1	10	109	0	135
重症	1	0	1	37	5	0	85	2	16	393	230	770
中等症	2	1	0	158	25	15	422	3	22	2,003	934	3,585
軽症	10	0	1	1,137	34	53	986	44	70	4,448	52	6,835
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	15	1	2	1,336	65	68	1,501	50	118	6,953	1,216	11,325

(注1) 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

(傷病程度)

死亡 初診時において、死亡が確認されたもの

重症 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

中等症 傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

軽症 傷病の程度が入院を必要としないもの

その他 搬送したが医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの

#### 4 応急処置実施状況

救急隊員が行える救命処置（ラリングアルマスク等による気道確保、気管挿管、除細動、静脈路確保、薬剤投与、血糖測定、エピペン投与、ブドウ糖投与）の件数は269件（前年207件）となっています。

事故種別		急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
応急処置	応急処置対象人員	6,908	1,305	1,477	1,513	11,203
	止血	33	51	94	27	205
	固定	36	271	189	56	552
	人工呼吸	37	1	3	3	44
	心マッサージ	17	0	0	0	17
Ⅱ	うち自動	12	0	0	0	12
	心肺蘇生	231	5	18	27	281
Ⅱ	うち自動	22	1	0	4	27
	酸素吸入	1,117	27	62	422	1,628
	気道確保	300	9	28	40	377
Ⅱ	うち経鼻エアウェイ	13	1	0	1	15
Ⅱ	うち喉頭鏡・鉗子等	5	0	5	1	11
救	うちラリングアルマスク等	96	2	3	8	109
救	うち気管挿管	16	0	5	1	22
	保温	368	41	70	78	557
	被覆	56	372	398	77	903
Ⅱ	在宅療法継続	13	0	0	0	13
Ⅱ	ショックパンツ	0	0	0	0	0
Ⅱ	除細動	30	2	2	0	34
	静脈路確保	75	2	6	4	87
救	うち心肺停止前	0	0	0	1	1
	うち心肺停止後	75	2	6	3	86
救	薬剤投与	13	2	0	1	16
Ⅱ	血圧測定	6,480	1,260	1,390	1,403	10,533
Ⅱ	聴診器	917	71	110	123	1,221
Ⅱ	血中酸素飽和度の測定	6,669	1,287	1,432	1,465	10,853
Ⅱ	心電図	1,601	17	67	213	1,898
救	血糖測定	1	0	0	0	1
救	エピペン投与	0	0	0	0	0
救	ブドウ糖投与	0	0	0	0	0
	その他	5,390	497	785	886	7,558
合計		23,384	3,915	4,654	4,825	36,778
拡大された応急処置等		15,963	2,645	3,020	3,224	24,852
（うち救命処置）		231	8	16	14	269

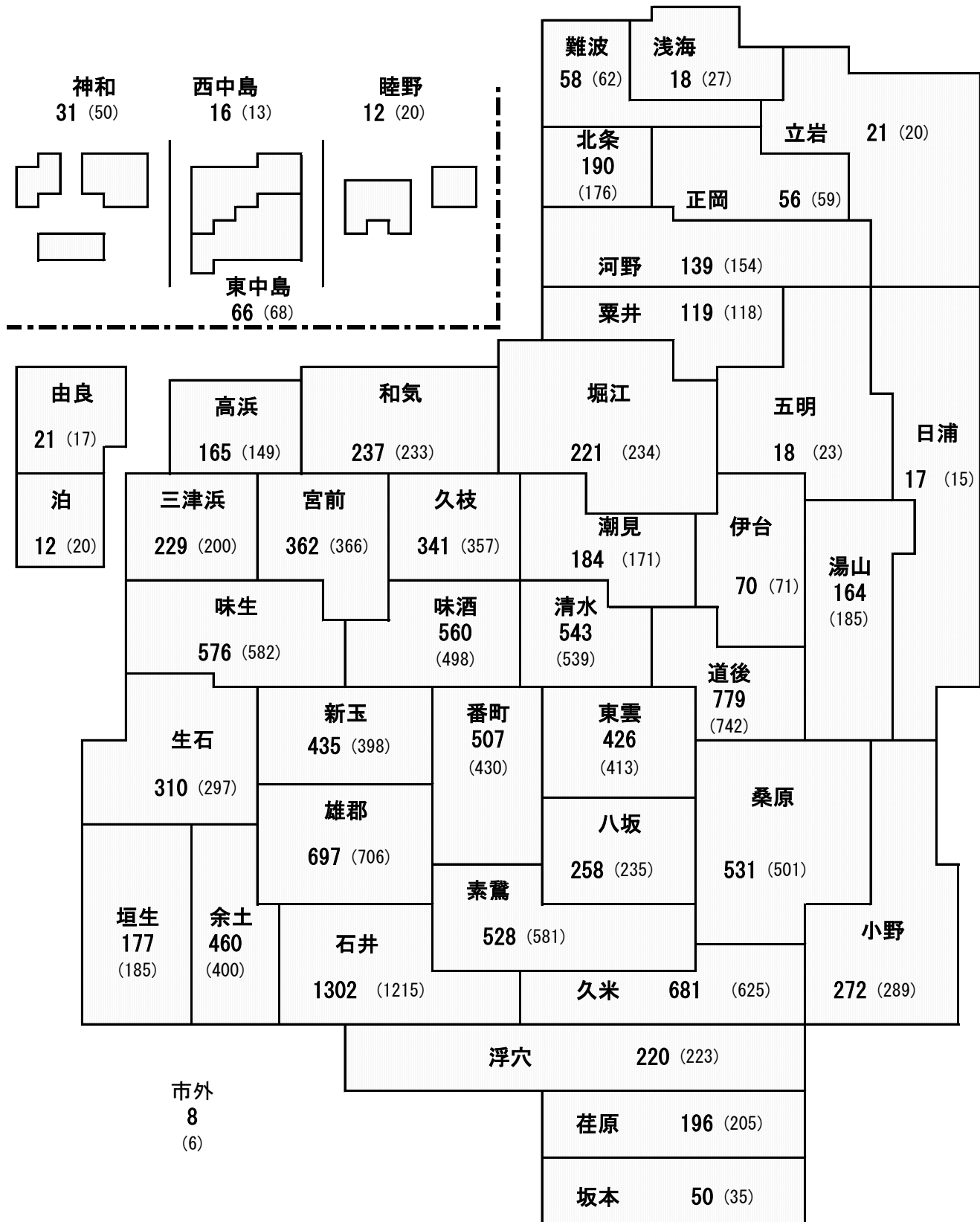
（注1）「Ⅱ」とは、救急Ⅱ課程修了者、標準課程修了者、救急科修了者が実施可能な処置

（注2）「救」とは、救急救命士が医師の指示により実施可能な救命処置

## 5 地区別救急発生状況

出場件数 12,283件 (前年 11,913件)

( ) 内は前年同期の発生状況





## 平成28年 上半期 火災・救急統計

火災統計に関するお問合せは

松山市消防局予防課

TEL: (089)926-9247 FAX: (089)926-9163

E-mail: sbyobou@city.matsuyama.ehime.jp

救急統計に関するお問合せは

松山市消防局警防課

TEL: (089)926-9227 FAX: (089)926-9188

E-mail: sbkeibou@city.matsuyama.ehime.jp

※平成26年上半期火災救急統計は松山市のホームページにも掲載しています。  
<http://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/bosai/sbbousai/sbtoukei/toukei.html>